

明暦3年正月 新添江戸之図



(請求番号：654-05-01-16 (ZA-044)) 東京都公文書館所蔵

明暦の大火直前を描いた、貴重な刊行絵図の写しです。

寛永9年12月の刊記をもつ「武州豊島郡江戸庄図」は、その絵画的表現や、屋敷名などの文字列を手前から見て読みやすい方向に統一しているなどの特徴を有し、その後に影響を与えたと考えられています。この図もその影響を受けた絵図群に属しつつも、際だった特徴を兼ね備えています。

その1つは北を上に行っていること、2つめは縦長の江戸図という点です。大方の江戸図は西を上にした横長で、江戸湾が下側に配置されています。これは「西南之好景を書き取る」という目的、つまり東海道に沿って展開する町と武家屋敷の進展という、この方角での活況を絵図に組み込むための戦略だったのでしょう。しかし、そのために上に掲げた部分図の左下にかなりの面積に渡る耕作地を書き入れた江戸図という、3つめの特徴を帯びることにもなっています。